

「巡検会報告」

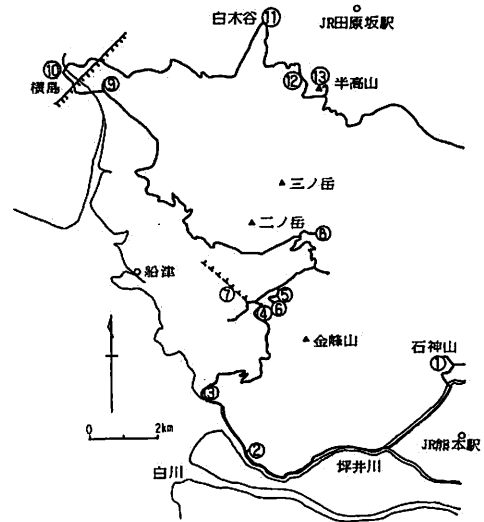
金峰山付近の火山地質

標記の巡検会が、10月25日、熊本大学・渡辺一徳先生の案内で26名が参加して行われた。巡検の主な目的は、金峰山とその周辺の火山地質の観察である。以下巡検ルートに従って報告する。

熊本大学を出発し、まず石神山①に着いた。石神山は、デイサイトの溶岩円頂丘で、採石現場ではその断面が観察できた。また、デイサイトには捕獲岩が希にみられ、そのまわりの孔隙に僅かに見える鱗珪石やクリストバル石が観察できた。次に百貫石②で凝灰角礫岩を観察した。成因は良く解らないが、小規模の火砕流が考えられるということであった。③は、溶岩や凝灰角礫岩などの成層構造が見られる大きな露頭で、溶岩じわが観察できた。

④-⑦はカルデラ内である。④では、芳野層（カルデラ湖に堆積した湖成層）と中央火口丘溶岩との境界の断層を見た。この芳野層は褶曲しており、それは溶岩円頂丘の盛り上りによって押された為だということだった。また、この地点から、⑦の断層の位置の説明をうけた。この断層は芳野層を変位させているらしく、これは芳野層より新しい断層であることを示している。⑤では、中央火口丘の溶岩の柱状節理が見られた。これは、この岩石が水又は水に飽和した堆積物によって急冷されたことを示す。このことは、中央火口丘は湖がまだ乾いていないときに活動したことを示すということであった。⑥では、中央火口丘の上にAS0-4（7-8万年前）の火砕流堆積物が見られた。このことは中央火口丘は7-8万年より以前に形成していたことを示している。

カルデラ北壁を登り、⑧で中央火口丘とそのまわりの断層地形の様子を見た後、昼食をとった。



巡検地点図

午後は北部地域である。まず⑨で凝灰角礫岩を見た。この地域の凝灰角礫岩は、磐梯山やセント・ヘレンズ火山で起こったような山体崩壊による岩屑なだれ（ドライアバランシュ）によるものらしい。今のところ、カルデラを形成したときに起きた山体崩壊の産物だと考えられると説明を受けた。⑩は横島である。これは⑩とはちがって、凝灰岩や角礫岩による成層構造を示しており、山体そのものであった可能性があるということだ。すなわち、立田山や花岡山・万日山の様に、断層によって金峰山本体が陥没したときにとり残されたと考えられるらしい。

⑪では、金峰山の基底だと思われる玄武岩を見た。これは、最近まで確認されていなかったそうである。⑫では、三ノ岳の輝石安山岩の溶岩流を観察した。このあたりでは溶岩流の末端が地形に良く現れているのが見られる。⑬は半高山である。これは、角閃石安山岩の溶岩円頂丘であり、⑭の溶岩流が流れる以前からあった寄生火山であるという説明を受けた。半高山の展望台で熊本平野の様子を眺めて休憩した後、帰路についた。

(熊大教育・高田英樹)